

《特集》第73回支部例会・2023年支部総会報告

【目次】

- 新支部長挨拶 (樋口 隆一) p.1
- 第73回支部例会報告
 - 講演要旨 (美山 良夫) p.1
 - 傍聴記 (工藤 哲朗) p.4
- 2023年支部総会報告 p.5
- 事務局だより p.10

新支部長挨拶

国際音楽資料情報協会 (IAML) の会員になったのは半世紀近い昔のこと、いまは亡き村井範子事務局長のお誘いによるものでした。ドイツで新バッハ全集の編纂に携わり帰国したものの10年は定職もなく、あちこちに原稿を書いて暮らしていました。

1988年には東京会議も開催され、日本支部の活動もようやく軌道に乗った感がありました。私自身は翌89年に明治学院大学に就職し、新設された芸術学科のために多くの時間を取られましたが、遠山一行先生が手塩にかけられた日本近代音楽館存続のために、2011年にはそれを大学図書館内にお引き受けできたのは望外の幸せでした。

2007年からは国際音楽学会 (IMS) の日本代表理事となり、IAMLとの共催事業にも参加しましたが、2012年に副会長に選ばれ、2017年にIMS東京大会を実現するまでは、IMSの仕事に多くの時間を取られ、いきおいIAMLに関わることが少なくなったのは申し訳ないかぎりです。2007年のニュースレターをみると、この年はIAMLシドニー大会、IMSチューリヒ大会に参加し、「RISMプロジェクトの現状—アインジーデルン国際会議を中心に」なる報告を書いています。この頃は親しいバッハ学者のクリストフ・ヴォルフがRISMの会長だったので、RISMとの関わりが多かつ

たようです。またRILM国内委員会の委員長も長く務めさせて頂いていました。

近年の私は、2000年に創立した明治学院バッハ・アカデミー合唱団の指揮活動が中心となり、来年6月にはライブツイヒ・バッハ音楽祭やウィーンへの演奏旅行などが予定されています。講演活動も、本年6月にはアイゼンシュタット国際ハイドン・シンポジウムで「ハイドンの教会音楽とバッハ」、オーストリア音楽協会で「新ウィーン楽派と日本」、ウィーン大学とローマ日本文化会館で「祖父樋口季一郎と戦前日本のユダヤ政策」など、日本全国のみならず、国際的にも展開せざるをえなくなりました。しかしこういう活動の基礎にはバッハ研究で培った資料に基づく「もののみかた」があります。その意味で、音楽研究の基礎を提供するIAMLの仕事の重要性は理解しているつもりです。会員各位のご協力を得て、IAML日本支部の発展に多少なりとも寄与できれば幸いです。よろしくお願い申し上げます。

ひぐち りゅういち
(樋口 隆一)

第73回支部例会報告

南葵音楽文庫について

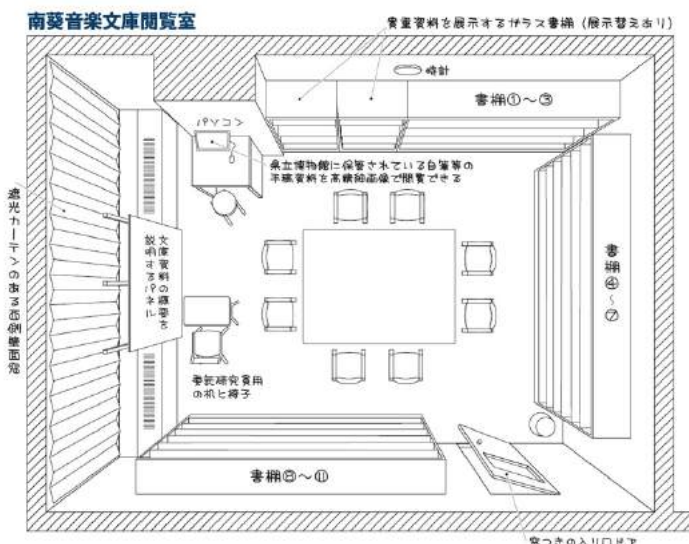
和歌山県立図書館での公開から5年を経過して

【講演要旨】

2017年12月に南葵音楽文庫が和歌山県立図書館で公開されてから5年が経過しました。その間、収蔵資料の目録化に加え、重要資料報告会、紀要の年次刊行等の活動を通じて、多くの発見や知見が得られました。その成果は、『南葵音楽文庫紀要』のほか、200回を超えるミニレクチャーやアカデミー等の講座を通じ紹介してきました。

今回は、壁面が約 1 世紀前の南葵音楽図書館にあった蔵書で埋められている和歌山県立図書館の南葵音楽文庫閲覧室からオンライン (Zoom) で文庫の現在を報告します。なお、貴重書庫内は Wi-Fi 環境が未達のため、第 2 部の書庫案内は直前に撮影した画像による紹介とします。

1. 南葵音楽文庫閲覧室



南葵音楽文庫の寄託受け入れに伴い、それまでの特別閲覧室を改装し、専用の閲覧室として整備、少人数の講座にも活用しています。書棚には徳川頼貞自身がヨーロッパで購入ないし音楽家から献呈された楽譜、著書、計画的に購入した全集楽譜などが、展示用書棚には頼貞自筆の研究ノート、南葵音楽図書館が刊行したヘンデル《グロリア・パトリ》のファクシミリ等が並んでいます。例えばこれはダンディが頼貞に贈った自著『セザール・フランク』です。閲覧室入口前のケースには、模型、W.M.ヴォーリズによる設計図 (複製)、演奏会プログラム等南葵楽堂に関連した資料が展示されています。



『南葵文華』第 5 号は、閲覧室の概要を紹介しています。南葵音楽文庫のウェブサイトで見学・ダウンロードできます。

<https://www.lib.wakayamac.ac.jp/nanki/publications/index.html>



南葵音楽文庫閲覧室 利用ガイド

よみがえる「南葵音楽図書館」

このたび、南葵音楽文庫閲覧室に設置した本や楽譜を大幅に入れ替えました。貴重書庫に収められていた多数の資料を閲覧室に移し、1 世紀前、南葵文庫の建物にあった「南葵音楽図書館」閲覧室の再現を図りました。直接書物や楽譜を手にとり、頼貞の直筆サイン等を眺めれば、蒐集にかけた頼貞の熱意、音楽図書館に託した理想を感じられるでしょう。



▲徳川頼貞 南葵音楽図書館設立 (1925 年) 時の写真



▲作曲家全集楽譜の入れ替え作業中 (2021 年 8 月撮影)

古典的な音楽書が、ここでは刊行当時の有革の装綴で並んでいます。

▼南葵音楽文庫閲覧室入口 手前は楽譜資料展示ケース



ページを開けば蓄音機、ピアノなどの広告が... 1 世紀前の音楽生活を彷彿とさせます。

2. 書庫案内

ベートーヴェンの自筆譜など手稿資料のほぼすべてにあたる約 100 点は和歌山県立博物館の収蔵庫で、他の約 2 万点は県立図書館で保管されています。

和歌山県立図書館貴重書庫入口の二重の扉です。



貴重書庫上層階すべてを用い、楽譜など大型本に対応、大地震でも落下しないように工夫した書棚を 2016 年から翌年にかけて設置整備しました。

排架は、研究員と協議しながら、OPAC データの整備と並行して順次すすめ、3 年後に完了しています。徳川頼貞が設立した南葵音楽図書館に由来する資料群 (旧

収蔵) と 1970 年前後に追加購入した新収蔵とは、NDC 順に混排はせず、書庫内でも截然と分けて排架しています。



旧収蔵のうち『貴重資料』目録 (1970 年) 掲載の刊本は、ほとんどが半世紀前に正木光江氏らによって準備された箱や、資料サイズにあわせ特注された帙に、今も護られています。



帙のひとつを開くと、革装のマルティーニ『音楽史』第 1 巻が現れました。その見開きには旧蔵者の蔵書票、著者の肖像画が貼り込まれ、その上部には旧蔵者カミングスの書き込みがあります。タイトル頁の前の遊び紙には、ドレスデンの弟子にあてたマルティーニの自筆書簡が挟みこまれ、右下にはその売り立て目録の切り抜きが貼り込まれています。こうした資料については、来歴など手沢本として個体ごとの特徴を、調べ跡づけてゆきます。資料ひとつひとつに、その資料ならではの歴史があるのです。



この種のリサーチは、和歌山で公開されるまでほぼ未着手でしたので、今後多くの専門家による調査が期待されま

箱のひとつを開けてみましょう。ヘンデル《メサイア》Royal Harmonic Institution 版で、カミングス旧蔵。装幀は傷みがあり、修復の必要があ



ります。所蔵する読売日本交響楽団は和歌山寄託に先立って、2016 年から毎年修復のための予算を組み、専門家に作業を依頼し、今も続いています。専門家と研究員で検討し、緊急性や必要性を勘案して作業の順番を決めています。

NDC に準拠した新ラベルは、旧ラベルの上側に貼付し、半世紀前の整理法も、文庫の歴史として残すようにしました。パート譜を収納する袋も、そのまま利用しています。複数の袋に亘る場合は、新たに中性紙の箱を準備し、順次移しかえています。



書庫に収蔵されているのは、資料だけではなく、旧蔵者の資料への愛、徳川頼貞による音楽図書館への情熱、保管し整理してきた図書館員、関係者の資料へのリスペクト……。書庫には思いが満ちています。それらすべてに
 応えながら、明日につなげ、地域と世界にひらいてゆくのは、所蔵者と寄託を受け入れた機関の責務でしょう。

3. 成果、活動、課題

資料を直接閲覧するのが困難な時代が続いたため、調査は始まったばかりです。しかし、公開から 5 年余ですが、多くの発見がありました。ワーグナー《ローエングリン》の楽譜には、カットの指示が多数残っています。日本初のワーグナー本格上演であった藤原歌劇団の、戦時下ゆえに時間が限られた公演 (1942 年) に供されたためでした。ベートーヴェン「第九」のパート譜には、夥しい書き込みがあります。日本人による同交響曲初演 (1924 年) のため、頼貞が用意し貸し出した楽譜と判明しました。徳島のドイツ人俘虜収容所で使用された楽譜が見つかり、一週間まえにはブゾーニ旧蔵の図書が見つかりました。

この文庫が、個人の閉じられたコレクションではなく、困難な時代のなかで、日本における西洋音楽受容と振興のために寄与してきた事実であり、徳川頼貞を通じて世界の音楽関係者とつながっているという驚きでした。チェリストのホルマンのみならず、当代一流の音楽家との交友からもたらされた多数の資料が、頼貞個人ではなくライブラリーの所蔵とされていた点も明確になりました。デジタル化された貴重資料の画像は、英国、ドイツ等であらたな校訂楽譜の出版につながりました。パーセル協会版《デイドとエネアス》はその一例です。

また中央公論新社から『南葵音楽文庫案内』など3点の図書を刊行しました。



音楽資料コレクションは、専門家にとっての有用性は明々白白であっても、一般には馴染みがありません。そこで公開と同時に、毎週ミニレクチャーを実施、また県立図書館からは独立した活動としてサポーターを募り、自主的に読書会や関連コンサートを催してきました。図書館側からは「教育普及事業」とその延長といった位置づけですが、私は地域における文庫の「オーディエンス形成」と位置づけています。文化財（音楽資料価値）である以上に、地域のシンボル＝象徴財（地域象徴価値）であるといった説明も、納税者には必要かと思えました。

最後に、今後の課題について。寄託資料を収蔵保管する県立図書館、県立博物館には、文庫の歴史や価値を識る専門スタッフがいます。しかし、音楽資料専門家ではないため、今後も専門家の協力は担保されなくてはなりません。社会教育機関ではあっても行政の枠内のため、事務管理の人事異動、単年度予算のくびきがあり、中長期的な計画策定が困難な面があります。新たな目録刊行など、世界が知

るコレクション南葵音楽文庫に相応しい姿をもとめての努力は、まだまだ続けなくてはならないでしょう。

【付記】

本稿は、例会当日お話しした内容について、記憶をたどりながら抄録したものです。紙幅の関係から画像の多くを割愛し、また若干付記した部分があります。なお、本 Newsletter には、デジタル化（48号、2013年）、和歌山県寄託（60号、2017年）について寄稿しています。関連講座 Zoom 聴講は[南葵徳川音楽塾](https://www.nankibunka.com)のサイトへ、サポーターによる関連公報配信はnankibunka@gmail.com へ申し込みを。

みやま よしお
(美山 良夫)

慶應義塾大学名誉教授、南葵音楽文庫研究員

【傍聴記】

今回の例会は、南葵音楽文庫が和歌山県立図書館で公開されて5年の節目に合わせて行われた。当日は同文庫研究員の美山良夫氏が、同館南葵音楽文庫閲覧室から Zoom の生中継で報告し、臨場感ある例会となった。

報告では貴重な資料の数々や、コレクションの調査・研究、普及、保存・修復に係る様々な取組が紹介された。その詳細は美山氏の記事に譲るとして、私が報告を聞いてまず感じたのは、南葵音楽文庫は実に収まるべきところに収まったのではないかと、ということだった。

告白すれば、南葵音楽文庫が和歌山で公開されると初めて聞いたとき、私は「なぜ和歌山で？」と思った。旧蔵者である紀州徳川家が和歌山にルーツを持つとはいえ、南葵音楽文庫のコレクション自体は基本的に東京で集められたものだし、東京や大阪などの大都市圏の方が閲覧者数も見込めるのではないかと思ったのだ。こうしたことから、特にコレクションが和歌山に「里帰り」といった言い回しには、疑問を抱かざるを得なかった。

しかし、今回の報告で私のこの疑問は氷解した。美山氏によれば、和歌山の人々は南葵音楽文庫を「自分たちのもの」と意識しているといい、その理由（の一端）は、コレクションの購入に当てられた紀州徳川家の富が、他ならぬ和歌山の人々の労働により築かれたものだからだ。

この話を聴き、私は「なるほど、南葵音楽文庫という財産の恩恵をまず享受すべきは確かに和歌山の人々だ」と深く得心し、和歌山での公開を心から納得することができ

た。同時に、今まで公開の背景となる和歌山の人々の意識に全く思いが至らなかった不明を恥じた。個人的には、この点が今回の報告で一番記憶に残った点である。

もちろん、和歌山を公開に相応しい場所とする理由は、過去の購入資金の出所ということには留まらない。報告の中で言及のあったように、南葵音楽文庫は和歌山での公開以降、県の予算を割いて—すなわち現在の和歌山県民に支えられて—盛んに活用されている。ビジュアル的要素を豊富に盛り込んだ『南葵音楽文庫案内』や史料価値のある著作（私家版『薈庭楽話』、『徳川頼貞侯の横顔』）の公刊だけでも十分意義深いところ、独自の研究紀要『南葵音楽文庫紀要』や広報誌『南葵文華』を継続刊行し、市民向けの演奏会やシンポジウム、セミナーやレクチャーなどの催しも数え切れないほどの回数実施されている。これは驚異的というほかない水準の活用であり、少なくとも日本においてこれほど開かれた音楽コレクションはないだろう^(注1)。研究者から「和歌山県民が羨ましい」^(注2)との声がかかるのも自然なことだ。

これが東京や大阪などの大都市圏だった場合、果たしてこれほどの活用がなされただろうか。南葵音楽文庫が日本有数の音楽資料コレクションであるとはいえ、大都市圏には予算措置の上で競合する資料群や事業等が既に多く存在する可能性が高い。また、昨今ほどの自治体も決して余裕のある財政状況ではないはずだ。そうした中で和歌山県が寄託に手を挙げたのは、やはりこのコレクションが「自分たちのもの」であるという意識から来る、活用への使命感や責任感もあったのではないか。もちろん、これは個人の勝手な推測で、寄託に係る詳細な経緯は筆者の知るところではない。しかし、今後もこのコレクションを長期にわたって保存・活用していく上では、単なる財政的な背景だけではなく、そうした使命感や責任感こそが、（公金支出の根拠としても）非常に重要だろう。そのためにも、今後も南葵音楽文庫がより一層広く市民に開かれ、愛されるコレクションとなることを願ってやまない。

ただ、そうした「愛」ゆえに調査・研究の目が曇らされていないかは、今後留意する必要があるかもしれない。

例えば、南葵音楽文庫のコレクション構築の背景を知る上で徳川頼貞の人物像の研究は不可欠だろうが、彼の行動には時に同時代人からの激しい批判があったり^(注3)、現

在から見れば眉を顰める人もあるであろうものもあつたりする^(注4)。単なる郷土の偉人の顕彰事業であれば、或いはこうした事柄に目をつむるという選択肢も採り得るかもしれない。しかし、南葵音楽文庫の活用が学術的な調査研究をその柱の一つとする限りは、「等身大」の頼貞像を描く目的で、こうした事柄も正視していく必要があるだろう。

もちろん、こうした事柄は現在の価値観だけでなく、当時の社会通念なども慎重に勘案した上で評価が下されるべきであり、今後違った形で評価がなされる余地も十二分にある。また、そもそも同文庫研究員の現在の顔触れからすれば、このような心配は当面全く無用だろうが、今後の普及活動の進展などにより、南葵音楽文庫に関わる人々も変化・拡大していくことが予想されることから、不遜ながらあえて贅言を弄した次第である。

以上、本稿では主に和歌山との関連のもと所感を述べたが、このコレクションは日本全体、あるいは世界から見ても注目されるべきものであり、今回の報告で益々今後の活動の進展が楽しみになった。IAML 日本支部でも、また機会を捉えて南葵音楽文庫の資料・活動に関して理解を深める場を設け、この稀有なコレクションの活用に貢献できると良いのではないかと思う。

[注]

- (1) なお、本文で触れた様々な活用の取組に加え、南葵音楽文庫が和歌山県立図書館に寄託されたことで、従来は大学図書館等にしか所蔵されていなかった音楽関係の洋書・洋雑誌が公立図書館の複写ネットワークに乗ったことも、特に大学等に所属を持たない研究者・音楽家には一定のインパクトを与えたのではないかと考えたが、筆者が公立図書館の実務に明るくない（ただし、大学図書館所蔵資料の複写物を、公立図書館を通して入手するのは諸般の制約からハードルが高いと聞く）ため、本文での言及は避けた。
- (2) 奥中康人「書籍紹介 和歌山県教育委員会編『紀州徳川400年 南葵音楽文庫案内』」『東洋音楽研究』(86): 2021, 112 頁。
- (3) 例えば、頼貞による和歌山での別荘建設について、南方熊楠は田所四郎宛の書簡(1930(昭和5)年7月7日付)で頼貞を頼倫と比較しつつ口を極めて非難している(『南方熊楠全集』別巻1〈平凡社、1975〉、489-490 頁)。
- (4) 例えば、頼貞は戦中に和歌山に妾宅を設け、折りに触れて訪問していたとみられる(竹中康彦「喜多村進宛絵葉書 徳川頼貞筆」『和歌山県立博物館研究紀要』(27): 2021.3, 53 頁)。

(工藤 哲朗)

2023 年支部総会報告

日時 2023 年 6 月 3 日 (土) 13:00~14:00

場所 オンライン (zoom)

出席 石田康博、伊東辰彦、伊藤真理、加藤信哉、工藤哲朗、栗林あかね、坂巻彩華、田島克実、田中申明、鳥海恵司、野川夢美、樋口隆一、宮崎晴代、美山良夫、柳澤健太郎、山本宗由、東京音楽大学付属図書館 (信時裕子)、桐朋学園大学附属図書館、株式会社トッカータ、日本近代音楽館 (以上 21 名:五十音順、敬称略)

委任状提出:荒川恒子、飯山かおり、板津昇龍、金井喜一郎、加納 マリ、佐々木勉、清水拓哉、関根敏子、友利修、中西紗織、那須聡子、星野宏美、大和紘子、アカデミア・ミュージック(株) 佐久間和男、国立音楽大学附属図書館、昭和音楽大学附属図書館、同朋大学・名古屋音楽大学図書館前田利明、民音音楽博物館、武蔵野音楽大学図書館 (森田美智子) (以上 17 名:五十音順、敬称略)

資料

① 2022 年活動計画および 2023 年活動計画

② IAML2022 年決算

③ IAML2023 年予算案

議事

I 開会挨拶 支部長 伊藤真理

II 総会成立の確認 会員数 56 名。定足数 29 出席者 21 名、委任状提出 19 名、合計 40 名。定足数 29 を満たしているので総会成立。

III 議長選出 東京音楽大学附属図書館 信時裕子氏

IV 報告事項

1. 2022 年活動報告 (資料①)

2. 2022 年決算報告並びに会計監査報告 (資料②)

3. 会員の異動 (2023.5.24 現在) 退会:1 名 (森立子)、入会:1 名、1 団体 (清水拓哉、一般社団法人 ISMN コードセンター)

4. 役員選挙 2023 報告・発表

2023 年役員選挙は 3 月 17 日公示、候補者の推薦受付を経て、4 月 21 日より本選挙 (郵便)、5 月 12 日投票が締切られた。5 月 17 日に行なわれた開票の結果は次の通りである (数字は得票数)。

投票総数 32、(無効投票 0)、投票率 58.2%。

○支部長 樋口隆一 26

○副支部長 加藤信哉 24

○事務局長 加納マリ 29

○役員 田中申明 23

鳥海恵司 26

野川夢美 27

山本宗由 20

なお、今回の選挙委員会は、田島克実委員長、柳澤健太郎委員、宮崎晴代委員の 3 名によって運営された。

5. その他

・フレンズ制度、図書館利用制度の現状について。フレンズ制度への入会 1 名。支部 web サイトにフレンズ制度の案内を行っている。6 月をめどにフレンズ会員専用のページを作成する予定。図書館利用制度は運用に向けて準備中。(加藤)

・Web ページについて。新しい 3 つの機能 (フレンズと会員専用ページの設置、事務局への目的別 form の設置、https からの接続) を設定した。費用の点で、様々な条件を考慮したうえで新しいサーバーへの変更も考えてほしい。(柳澤)

・昨年 BIBLIS PLUS に、当支部のニューズレターの書誌データが登録された。(伊藤)

V 審議事項

1. 2023 年活動計画 (資料①) 【承認】

2. 2023 年予算案 (資料③) 【承認】

3. ケンブリッジ国際大会代表出席者 適任者がいないため、今年代表者を派遣しない。【承認】

4. 新支部長挨拶および新役員人事 【承認】

新支部長挨拶 (樋口隆一)

新役員人事

○会計:野川夢美

○会計監査:田島克実

VI その他

伊藤支部長からご挨拶。アドボカシーの推進 (関係諸組織の担当者を決めリエゾンの役割を担う)、財政改善の新事業の立ち上げが少しずつ奏功しており協力に感謝する。引き続きご協力を賜りたい。

VII 議長解任

VIII 閉会

2022 年活動報告および 2023 年活動計画

	2022 年活動報告	2023 年活動計画(中間報告及び予定)
国際大会	プラハ国際大会 2022 年 7 月 24 日(日)~29 日(金) プラハ中央図書館およびチェコ共和国国立図書館にて対面で開催。 参加:荒川恒子、那須聡子、田中伸明	ケンブリッジ大会 2023 年 7 月 30 日(日)~8 月 4 日(金) ケンブリッジ大学音楽学部で対面開催の予定。 *Covid-19 の感染状況によって変更の可能性あり。
総会	2022 年 6 月 11 日(土)オンライン(zoom)にて開催 (出欠確認や委任状については Google Forms を利用)	2022 年 6 月 3 日(土)13:00 オンライン(zoom)にて開催予定。
役員会	2022 年 1 月 31 日(日) オンライン会議 2022 年 3 月 16 日(金) オンライン会議 2022 年 6 月 9 日(木) オンライン会議 2022 年 11 月 10 日(木) オンライン会議 2022 年 12 月 29 日(木) オンライン会議	2023 年 3 月 3 日(金) オンライン会議 2023 年 5 月 24 日(水) オンライン会議
支部例会・集会	第 71 回例会 2022 年 6 月 11 日(土)オンライン開催 【講演】「フランス・ベンダの生涯・作品と新たな作品目録について」 講師:田中伸明氏(ヴェルツブルク音楽大学) 第 72 回例会 2023 年 1 月 28 日(土)オンライン開催 【講演】「音楽博物館の現状と将来について」 講師:井上裕太氏(弘前学院大学 講師)	第 73 回例会 2023 年 6 月 3 日(土)オンライン開催 【講演】 「南葵音楽文庫について—和歌山県立図書館での公開から 5 年を経過して」 講師:美山良夫氏(慶應義塾大学名誉教授、南葵音楽文庫研究員) 第 74 回例会 予定
ニューズレター	第 72 号 2022 年 1 月 31 日刊行(既刊) 追悼・村井範子先生特集 第 73 号 2022 年 4 月 3 日刊行(既刊) 第 70 回研究例会・IAML オンライン大会 第 74 号 2022 年 9 月 27 日刊行(既刊) 第 71 回研究例会・2022 年度総会報告	第 75 号 2023 年 1 月 17 日刊行(既刊) 2022 年プラハ大会参加報告 第 76 号 2023 年 5 月 1 日刊行(既刊) 第 72 回研究例会 第 77 号 2023 年
ホームページ・SNS 更新	ニューズレター掲載 第 72 号 (1/31)、 第 73 号 (4/3)、第 74 号 (9/27) 総会・第 71 回例会案内 (5/11) 総会報告、支部パンフレット (7/1) 第 72 回例会案内 (12/1)	IAML プラハ大会の録画公開のお知らせ (1/13) 総会・第 73 回例会案内(5/2) フレンズの専用ページの運用開始予定 会員専用ページの運用開始予定 ニューズレター掲載 第 75 号 (1/19) ニューズレター掲載 第 76 号 (5/2)
その他	本部への会費送金 337,767 円 (4/27)	本部への会費送金 365,875 円 (4/18)

IAML 2022 年 決算 12 月 31 日

費 目	2022 年		予算決算差額	備考
	予算	決算		
前年繰越:	2021 年繰越金			
現金	0	0	0	
ゆうちょ	486,094	486,094	0	
(内 会員会議参加補助基金				¥127,000
三菱東京UFJ銀行	245,772	245,772	0	
(小 計) 【a】	731,866	731,866	0	
収入:				
未収会費				
2021 年以前				
個人	24,000	24,000	0	
団体	0	0	0	
会費 2022 年				
個人	78,000	66,000	12,000	2 名未納
団体	14,000	14,000	0	
利息	1	0	1	
会費 2023 年				
個人	234,000	138,000	96,000	未納 16 名 (39 名)
団体	252,000	238,000	14,000	未納 1 団体 (18 団体)
雑収入	0	25,800	-25,800	(株) トッカータ 広告掲載料、 会員 1 名 誤入金
(小 計)	602,001	505,800	96,201	
会員会議参加補助基金	0	0	0	
フレンズ支援金	0	9,000	-9,000	フレンズ 1 名
会員サポート・支部活動支援 基金	41,000	21,000	20,000	
(収入小計) 【b】	643,001	535,800	107,201	
収入総額 【c】 = 【a】 + 【b】	1,374,867	1,267,666	107,201	
支出:				
本部宛会費送金 【d】	337,767	337,767	0	2438.40EUR × 138.52円
予備費 【e】	10,000	0	10,000	
経常経費:				
RILM 分担金	80,000	40,000	40,000	2022 年度より減額
大会代表派遣費	100,000	0	100,000	
ニュース・レター	25,000	0	25,000	原稿料、印刷費
会議費、例会費	15,000	0	15,000	
交通費	10,000	1,299	8,701	役員会等オンライン実施
通信費	25,000	3,420	21,580	会費請求切手代ほか
消耗品費	2,000	0	2,000	
雑費	76,629	74,739	1,890	過年度、当該年度誤入金 の返金、振込手数料
アルバイト代	0	0	0	
HP 運営費	45,848	45,848	0	
(経常経費小計) 【f】	379,477	165,306	214,171	
会員会議参加補助基金 【g】	0	0	0	
支出総額 【i】 = 【d】 + 【e】 + 【f】 + 【g】	727,244	503,073	224,171	
次年度繰越 【j】 = 【c】 - 【i】	647,623	764,593	-116,970	

次年度繰越金	
現金	0
郵便局	560,095
(内 会員会議参加補助基金	
銀行	204,498
総額	764,593

(¥127,000)

IAML 日本支部の 2022 年 明細書を精査した結果、適切に処理、記載されていると認めます。

2023 年 5 月 / 日

IAML 日本支部 会計監査

平岩 寧

IAML2023年予算案

費 目	2023年予算	2022年決算	予算決算差額	備考
前年繰越：	2022年繰り越し	2021年繰り越し		
現金	0	0	0	
ゆうちょ	560,095	486,094	74,001	
(内 会員会議参加補助基金)				¥127,000
三菱東京UFJ銀行	204,498	245,772	-41,274	
(小 計) 【a】	764,593	731,866	32,727	
収入：				
未収会費				
2022年以前				
個人	12,000	90,000	-78,000	2名未納
団体	0	14,000	-14,000	
会費2023年				
個人	96,000	138,000	-42,000	16名未納
団体	14,000	238,000	-224,000	1団体未納
利息	0	0	0	
会費2024年				
個人	234,000	0	234,000	39名(退会1名、入会1名)
団体	266,000	0	266,000	19団体(1団体加盟)
雑収入	0	25,800	-25,800	
(小 計)	622,000	505,800	116,200	
会員会議参加補助基金	0	0	0	
フレンズ支援金	9,000	9,000	0	
会員サポート・支部活動支援基金	24,000	21,000	3,000	
(収入小計) 【b】	655,000	535,800	119,200	
収入総額 【c】 = 【a】 + 【b】	1,419,593	1,267,666	151,927	
支出：				
本部宛会費送金 【d】	364,875	337,767	27,108	2458.40€×148.42円
予備費 【e】	10,000	0	10,000	
経常経費：				
RILM分担金	40,000	40,000	0	
大会代表派遣費	100,000	0	100,000	2023年ケンブリッジ大会対面実施
ニュース・レター	15,000	0	15,000	原稿料、印刷費
会議費、例会費	10,000	0	10,000	講演料
交通費	10,000	1,299	8,701	選挙委員交通費含む
通信費	30,000	3,420	26,580	選挙送料含む
消耗品費	10,000	0	10,000	長3封筒購入、選挙消耗品含む
雑費	20,000	74,739	-54,739	振込手数料、選挙コピー代含む
アルバイト代	0	0	0	
HP運営費	27,588	45,848	-18,260	HPサーバ(GMO)利用料
(経常経費小計) 【f】	262,588	165,306	97,282	
会員会議参加補助基金 【g】	0	0	0	2023年ケンブリッジ大会申込者なし
支出総額 【i】 = 【d】 + 【e】 + 【f】 + 【g】	637,463	503,073	134,390	
次年度繰越 【j】 = 【c】 - 【i】	782,130	764,593	17,537	

事務局だより

○事務局の住所変更

役員の交替に伴い今年度から事務局の住所を変更いたしました。今後、事務局への連絡は、下記住所宛にお願い申し上げます。

新住所：IAML 日本支部事務局
〒182-8510 東京都調布市若葉町
1-41-1 桐朋学園大学附属図書館内

○会費納入のお願い

2023 年 11 月中に、2024 年度（2024 年 1 月～2024 年 12 月）の会費納入の書類を送付いたします。支部運営のため、できるだけ早い納入にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせは、会計・野川（nogawa★tohomusic.ac.jp; メール送信の際は★を@に変えてください）までお願い申し上げます。

○第 74 回 IAML 日本支部例会のご案内

2024 年 1 月 20 日（土）14 時から 16 時（講演 90 分、質疑 30 分）

開催方法：オンライン

テーマ：「信時潔研究ガイドについて」

講師：信時裕子（非会員、東京音楽大学付属図書館）

内容：作曲家・信時潔に関する研究情報を提供するページ

「信時潔研究ガイド」の作成の経緯、内容、利用
及び今後の予定についての紹介

参加対象：支部会員、フレンズ及び非会員

参加費：支部会員、フレンズ：無料

非会員：有料（1,000 円）

○メールリングリストの変更について

会員等のお知らせに使用していたメールリングリストの切り替えが進行中です。メールリングリストの担当者から会員およびフレンズのみなさまに招待メールをお出ししますので、通知が届いた際には放置せず、速やかにメールリングリストへの登録をお願い申し上げます（google は利用しません）。

○ニューズレターの公開

今号よりニューズレターは、発行後一年間は「支部会員およびフレンズ」のみが独占的に閲覧可能なよう、運用が

変更されます。一般公開は、刊行後一年を経たものから順次行われます。刊行から一年に満たないバックナンバーを閲覧の際には、本支部ホームページの専用ページにアクセスいただき、事務局から会員宛に配布されている ID、パスワードを使っていただくことになります。利用に戸惑いを覚えられる会員の皆様も多いことと存じますが、本ニューズレターを Email 経由でお受け取りいただいた方には、その文面中で ID、パスワードの再通知、ならびに会員専用ページの利用方法についての案内が行われております。そちらも併せてご覧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(加納 マリ)

編集後記

第 77 号のニューズレターをお送りします。

大変な盛況であった前研究例会につき、講師の美山先生から改めてその概要をお送りいただきました他、会員の工藤哲朗さんから、講演に対する充実した傍聴記をお寄せいただいております。次号では、今年新たに団体会員として加入いただいた一般社団法人 ISMN コードセンター様による事業紹介を特集予定です。

役員交代の関係で、今号からは田中が発行を担当することとなりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(田中 伸明)



Newsletter - 国際音楽資料情報協会日本支部

第 77 号

(2023 年 11 月 20 日発行)

国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部

〒182-8510 東京都調布市若葉町 1-41-1

桐朋学園大学附属図書館内

(担当：田中)

<https://www.iaml.jp>